

# 「熟年離婚」に一直線 夫婦関係をぶち壊す

## 「モラハラなひと言」 4大実例

いつの時代も、パートナーに対する日常的な不満は大きなストレスの要因となる。夫婦のどちらか一方、あるいは双方に過度なストレスがかかった状態が続けば、家庭そのものが我慢を強いられる場所となり、苦痛を感じるだろう。やがて夫婦関係にほころびが生じ、挙げ句の果てに「離婚」の2文字すら見えてくることもある。

そんな事態に陥らないために大切なのは、「夫婦間にもマナーが存在する」という意識を持つことだ。マナーとは、「相手が不快感を覚えないための心遣い」。それが欠けてしまうと、どれだけ愛し合った2人であったとしても、愛情は目減りしていき、最終的には見捨てられてしまう。

実際に、夫婦間のマナー違反がきっかけで離婚の危機にいたった例として、こんなケースがある――。

モラハラ発言

### 1 「昔は美人だったのに今は……ね(笑)」

「あまりにもデリカシーのない夫の言動に、もう我慢の限界です」と語るJ子さん(43歳)には3歳年上で会社員の夫と2人の子がいる。Jさんいわく、「出会った頃の夫の印象は、職場や飲み会でも周囲を笑わせて場を盛り上げる陽気な人」ところが、結婚して15年、「世の中のマナーやコンプライアンスの常識が厳しくなった今、家庭内でもそこはお互いに最低限は気を配るべきだ」と思う。にもかかわらず、あの頃から自分の言動をまったくアツプデートしようとしていない夫に苛立つばかりだ」とあきれられる。

たとえば、加入している保険の見直しをしようと夫婦で話し合いをしていたときのこと。「自分が想像していたよりも我が家の貯金の額がだいぶ少ないことがわかって、どうしてこんなに貯金ができていないの?」J子さんが、「昔からお金に弱いけれど、よくパートナーが勤まってるよね(笑)」などと、まるで私の金銭管理能力が低いかのようにはにかかっていた夫。結婚当時からほとんど上がっていない夫の給料で節約生活に徹している私の苦勞をまるで理解しようとしていないことに猛烈に腹が立った。Jさんは心の中で「貯金が少ないのは、おまえの稼ぎが悪いからに決まっているだろう」と毒づいたという。

モラハラ発言

### 2 「トイレトーパー切れそうだぞ」

離婚の危機の決定打となったのは、飲み会帰りの夫が突然、職場の後輩を連れて帰宅したときの夫の言動だった。「これでも結婚前はスタイル抜群のいい女だったんだよ。今はすっかり所帯じみちゃったけど(笑)」と結婚生活や出産を経て体形が変わった私のことをあざ笑った。夫と子どもを支えることが中心の生活で、いつも自分のことは後回し。キレイになるためのお金と時間の余裕なんてゼロなのに、老いて太った私でウケを狙う夫が許せなかった(J子さん)

離婚の危機の決定打となったのは、「ウチの夫は面倒なことはすべて私におしつけようとする」とK美さん(39歳)は夫の家庭内マナー違反を指摘する。「たとえば、トイレトーパーやシャンプーは使い切ったほうが補充するのがマナーだと思う。それをわかってる夫は、あえて少しだけ残してバスルームやトイレをしれっと去り、次に使う私に補充係をやらせようとする」と話すK美さんは、「ささいなことかもしれないが、そういう日常の小さなマナー違反が積み重なって夫婦間の信頼関係を壊すことにつながる」と考えているという。

ほかに、こんなこともあった。K美さん夫婦はどちらかに用事があるときは、予定のないほうが4歳になる子どもの世話をし持つことになっていくもの、「圧倒的に私のほうが娘の世話をしている」とK美さんはこぼす。「先日、私が半年ぶりに美容院に行くことと準備をしていたら、朝から機嫌の悪い娘に手を焼いたらしく「ごめん、俺やっぱ無理だわ。この子もママのほうがいいってさ」と育児を丸投げしただけなのに……。夫に怒られたいから、自然と夫婦間の会話も減っていく」と



離婚カウンセラー 岡野あつこ Atsuko Okano  
立命館大学産業社会学部卒業、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了。公認心理師。自らの離婚経験を生かし、離婚カウンセリングという前人未踏の分野を確立。32年間で3万8000件以上の相談を受け、2200人以上の離婚カウンセラーを創出。

モラハラ発言

### 3 「おまえの親は娘の躰を忘れたな」

散らかった部屋の掃除や昼食の準備を早朝からする必要があるということ。せっかくの休日にゆっくり寝ていられたらなくなったことにもイラついたし、何よりもそんなに大事なことを夫の独断で決めたことに怒りがわいてきた。そこで、義母の来訪の準備にどれほど努力を費やすのかを伝えたと、夫からの返答はさらにY奈さんを苛立たせるものだったという。「夫は『適当に蕎麦とか茹でてくれるだけでいいからさ』などと、こともなげに言い放った。料理が苦手な私にとって蕎麦を茹でたり、薬味を用意したりするのに手間がかかるのに、そんな想像力すら働かせようとせずに家事労働を低く見積もっていることがまず腹立たしい。不機嫌になったことを隠さない私のテンションの低さによく気づいたのか『じゃあさ、駅ビルでお惣菜を買ってさちやえばいいよ』と私に買い物に強いる夫。すかさず『私に買い物に行けってこと?』だったら自分で行けばいいじゃん!』と冷たく言う」と、今度は夫が逆ギレしてきた。

モラハラ発言

### 4 「疲れてるから結論から話して」

会社での仕事ぶりをそのまま家庭に持ち込む夫も困りものだ。「たしかに頭がよくていつでも冷静なタイプの夫は、会社では『仕事ができる人』という評価のかもしれない。でも、妻の私にとっては『優しく思えないやりのある人』のほうがずっとうれしい」と話す一児の母のE香さん(40歳)は最近、5歳年上の夫の自分への態度が厳しすぎると感じている。「私は今日一日あったことや子どものことをすべて、帰宅後の夫に話して共有したい。ところが夫は私が話そうとするといつも『仕事で疲れているんだ。結論から話してほしい』とピンシャリ。結論もオチもないおしゃべりをしたい

夫婦であつてもとは他人。縁あって夫婦や家族になっただけの他人であることを忘れてはいけない。そう意識すると、おのずとマナー違反となる言動も是正されるもの。たとえば、朝食の席で「コーヒーのおかわり、要る?」と妻に聞かれたときも「いや、要らない」とつっけんどんに返すのではなく、「もう大丈夫だよ。ごちそうさま」と笑顔で気遣いするほうがより良好な夫婦関係を保つことができるようになる。いつか離婚の危機を招かないためにも「親しき仲にもマナーあり」を肝に銘じておきたい。

### ◆ 親しき夫婦にもマナーあり

夫婦であつてもとは他人。縁あって夫婦や家族になっただけの他人であることを忘れてはいけない。そう意識すると、おのずとマナー違反となる言動も是正されるもの。たとえば、朝食の席で「コーヒーのおかわり、要る?」と妻に聞かれたときも「いや、要らない」とつっけんどんに返すのではなく、「もう大丈夫だよ。ごちそうさま」と笑顔で気遣いするほうがより良好な夫婦関係を保つことができるようになる。いつか離婚の危機を招かないためにも「親しき仲にもマナーあり」を肝に銘じておきたい。

「もともとマザコン気味なところがあると感じてはいたが、あそこまでひどいとは思わなかった」と過去の出来事を振り返るY奈さん(37歳)の悩みは3年前に結婚した2歳年上の夫の言動について。「女手ひとつで育ててもらった恩義もあるせいか、とくに自分の母親のことになると夫婦間のマナーや気遣いが皆無になる」。

Y奈さんは結婚1年目にして早くも夫婦間のマナー違反を犯した夫に激怒した。「週末を控えた金曜日の夜、お互いに仕事を終えて帰宅して夕食をとっていたら『そういえば明日、おふくろが来るから昼メシでも一緒に食おうよ』と義母の突然の訪問を夫から告げられた。昼に義母が来るというのでは、

Y奈さん自身だけでなく両親の教育

※登場された方のプライバシーに配慮し、実際の事例を一部変更、再構成しています。

